



# ふじみ

学校ホームページ <http://higashimurayama.ed.jp/e15-fujimi/>

令和7年6月30日発行  
東村山市立富士見小学校  
〒189-0024 富士見町5-4-57  
TEL042-391-8194  
校長 戸崎 晃

## だれかと同じではない、大切な存在

校長 戸崎 晃

人は一人一人違います。私たち大人は、一人一人違うことを理解し認めているからこそ、一人一人に違う対応をします。

児童が何かしらいけないことをして、私たちが指導しなければならないとき、悪かったことがわかり反省している場合は優しく、全然聞き入れないような場合は時に厳しく、状況に応じて声かけを変えています。良くなってほしいという目的を達成するために、その子に応じた対応をします。

ここで大切なことは、「同じ」ということと「平等」ということは違うということです。

例えば、生活面でも学習面でも、友達とのかかわりやコミュニケーションでも、より良くなってほしい・できるようになってほしいという私たち大人の願い・目標はどの子に対しても同じです。しかし、支援の方法は同じではありません。目標を達成するために、その子に合った、一人一人に応じた方法で支援していくことが必要であり、それを行うことが平等ではないかと思うのです。すべての子に同じ指導しか行わないのは平等ではないと考えます。

ときに、子供たちは「同じ」であることが絶対的正義・唯一の正解であると思っていることがあります。そして、他者も自分と同じであるべきだという考えに立ち、自己中心的ととられる言動から友達とのトラブルを起こすこともあります。

また、これだけ努力したのだからこれだけの結果が得られるのは当然だと自分自身の基準で対価を決定し、満足した結果が得られなかった場合には「他者や物のせいだ」と転嫁したり、「自分はダメなんだ」と自己否定をしたりします。

成長の過程の中で、「同じでなければならない」という考え方をもつ時期・結果に固執する時期があるのは自然なことかも知れません。これから先、様々な体験を通して、人は同じではないこと・一人一人違うことを痛感することを繰り返し、やがてありのままの自分自身を受け入れられるようになるのかも知れません。そしてそれは、自己をより成長させる出発点となるのかも知れません。

だからこそ、大切なのはそんな成長期・児童への大人のかかわり方だと強く思います。

大人は経験上、努力しても結果に反映されないこともあることを知っています。どんなに自分を高めたとしても、他者との比較により自分にとって良い結果が得られないことがあることを知っています。

私たち大人が理解しておくべきことは、結果と人間性は一致するものではないということです。結果がだめだったからといって、その子自身がだめな訳ではありません。良さが失われるものではありません。

子供の頃は、まわりの大人から尊敬され、愛され、価値を認められ、自信をもつように励まされることによって、自信や自尊の気持ちが育ち、自己評価が高まります。

一生懸命生きている子供たちが何かうまくいかないことがあって自信をなくしそうな様子があったら、笑顔で、

《 私は、あなたががんばっている姿を見るのがうれしいんだよ。ありがとう。 》

とアイメッセージで伝え、ほめてあげてください。

多くの人との出会いや対話、協働体験等を通して多様な感じ方や考え方に接する中で、だれかと同じではない、大切な唯一の存在であることが感じられる夏になってほしいと願っています。